

## 生まれた時は戦争中だった

2014年7月1日 長谷川泰司

7月1日で70歳になった。古稀というそうだ。昔は70歳まで命をつなぐことが珍しかったからだという。親しい友人がポツリポツリと周りから消えていって、気が付くと私の部屋の壁の、絵や、写真や、民芸品の贈り主が故人に変わっている。

私が1歳になったばかりの頃に、戦争が終わった。私がまだゼロ歳だった昭和20年3月10日に、当時母が私と住んでいた中野が焼け野原になった。私を背負って逃げ回ったと、母は私によく話していた。一面焼け野原で、奇跡的に残った中野の家からは、高田馬場辺りまでよく見えたそうだ。小学生時代に住んでいた吉祥寺には当時まだ防空壕が残っている家があり、そこに入ると湿った空気が死者を身近に感じさせた。母は焼夷弾の恐ろしさを繰り返して語り、防空壕などに入ったって蒸し焼きになるだけだ、それで死んだ人もたくさんいる、とも言っていた。父は徴兵で取られ、二等兵として千葉にいた。戦後、「二等兵物語」という映画で伴淳三郎の演じる二等兵を観ては、軍隊の理不尽さを話していた。精神注入棒という棒で理由もなく思いっきりケツをたたかれる、頭に来るので、上官（一等兵）にフケを入れたメシを食わせて下痢にさせるのだ、などと自慢げに話をしていた。

今年は戦争が終わって69年、終戦からずいぶんと時間がたつたと改めて思う。日露戦争が終わったのが1905年で、36年後の1941年12月8日には太平洋戦争が始まっている。勿論、時代背景や国際情勢が大きく違う現在と比べるとは無意味という意見もあるだろうが、当時の2倍近い年月を私たちは戦争を体験しないで生活することができた。戦争によって日本人が死ぬことも、他国の人を殺すこともしないで済んだ。これは、あの戦争の無意味さ、理不尽さ、残虐さを、私たち、というより私たちの親の世代が皮膚感覚で認識していたからだと思う。

私たちの世代は、何を価値として生きてきたのだろうか。戦争はしてはならない、人を殺すことを国家権力は命じてはならない、ということではなかったのか。国を守る（そもそも国の何を守るのか曖昧なのだが）ためには武力が必要だ、と考える人が、今や随分と多くなっているようだ。でも、とどうしても考える。現代において武力によって国を守るとはどういう事なのだろうと。そんなことは可能なのだろうか、と。

昨年と同じ時に私は「死を強要する原子力発電所」という拙い文章を書き、親しい人々にお送りした。民間企業がその従業員に、命を賭して業務を遂行せよ、などという事はできないはずだが、原発はそれを強要する設備だ、ということを書いたかった。それから1年たった。今猛烈な勢いで市民レベルでの死、そして戦争が近づいているという気がして仕方ない。昨年はまだ当たり前と思っていた「国が国民に殺人を命じてはならないし、そういう事は憲法が禁じている」という私の中での原則が、あっという間に崩れてきていると感じる毎日だった。安倍政権下で起きたこの一年の出来事を振り返ってみよう。

2013年7月21日、第23回参院選で自民党が65議席を獲得し圧勝、公明党と合わせ参院

の過半数を確保した。衆参両院で与党が多数派となった。

7月20日、麻生副大臣兼財務大臣が、「ワイマール憲法もいつの間にかナチスの憲法に変わった。あの手口を学んだらどうか」などと発言した。

8月8日、内閣法制局長官に、小松一郎氏（元外務省国際法局長、元駐仏大使）を任命した。解釈という方法で集団的自衛権を実現するための布石であろう。最初の「お友達」人事。

8月20日、東京電力福島第一原発の貯蔵タンクから推計300トンの汚染水が漏れた。この後も、汚染水タンクからたびたび汚染水が漏れる事故が起こった。汚染水は地下水と混じって、現在も毎日400トン以上増え続けている。

9月3日、汚染水対策として凍土壁を作ることを検討、政府が470億の予算をつけることを閣議決定した。凍土壁については、原子力規制委員会をはじめ、多くの専門家が疑問視しているのだが。

9月7日、ブエノスアイレスで開かれていたIOC総会で、2020年夏季五輪・パラリンピックの開催都市に東京が選ばれた。その時の安倍首相のスピーチで、「私が安全を保障します」、「汚染水は福島第一原発の0.3平方キロメートルの港湾内に完全にブロックされている」などと発言した。

9月25日、オスプレイの普天間基地への配備が完了した。24機が配備された。

10月1日、消費税率を8%にすることがきまった。

10月30日、三菱重工が参加する国際コンソーシアムが、トルコ政府と、新規原発建設に関するFS（フィージビリティ・スタディー）の枠組みに関し正式合意に至った。安倍首相は5月と10月にトルコを訪問し、プロジェクトを後押しした。なお、2011年3月11日の福島第一原発事故の直後、ギリシャ首相がトルコ首相に電話で原発建設の中止を要請している。（日経2013年11月11日）

12月16日、「特定秘密保護法」を成立させた。

12月21日、NHK経営委員会は、1月24日で任期満了となる松本会長の後任に、靱井勝人氏を決めた。NHK経営委員会は安倍首相と人的に近い委員が多数を占めている。「お友達」人事第2弾。

12月26日、安倍首相が靖国神社を正式参拝した。

2014年2月14日、国会答弁で安倍首相は「（憲法解釈の）最高の責任者は私だ。政府答弁に私が責任を持って、その上で私たちは選挙で国民の審判を受ける。審判を受けるのは内閣法制局長官ではない。私だ」と発言した。一方、「安保法制懇（首相の私的諮問機関）で慎重に深い議論をして頂いている」と発言しているが、「安保法制懇」も「お友達懇談会」との批判が強い。

2月19日、高濃度汚染水100トンがタンクから溢れていることを協力会社作業員が発見した（東京新聞2014年2月19日）。過去に何回もあったが最近はあまり報道されない。

4月18日、トルコとアラブ首長国連合に原発を輸出できるようにする原子力協定が参院で

可決された。今夏にも発効の予定。

6月3日、凍土壁の建設が始まったが、依然として効果に対する疑問の声が多い（日経、東京、NHKなど）。一方、高濃度汚染水を処理するために設置されたALPSはトラブル続きだったが、3カ月ぶりに稼働を再開した（またいつ停まるか分からないが）。

まだまだ、気になったことで落としている事も多いと思うが、ざっと並べてもこんなにある。安倍首相はこの一年で、特定秘密保護法、集団的自衛権といった、今迄の日本の戦争への認識や価値観を根底から変えることを行っている。発言の節々に、独裁的な政治運営への傾斜がみられると感じるのは、私だけだろうか。

安倍首相のいう「美しい日本」とは「品格ある国家、社会を創り、世界から信頼され、敬愛される国」（安倍首相のホームページ）という事を言っているのだろう。しかし、憲法9条を捨て集団的自衛権を行使する国が、近隣諸国から「信頼され、敬愛される国」になれるのだろうか。何を持って「美しい」というのだろうか。

多分、私とは全く違う価値観で動いているのだろうが、根底にある彼の価値観が理解できない。日本には1億3千万の人々が様々な価値観を持って生きている。その多様な価値観をどうまとめていくか、が政治家だと思うのだが、今の安倍首相はただただ自分の価値観（それがよく分からないのだが）を押し通すことに血眼になっているようにしか見えない。そういう政治家こそが恐ろしい。そしてそれに異を唱える人々の声が（政治家を含めて）どんどん小さくなっていることが。とはいえ、テント村をはじめとした反・脱原発の運動は3年以上に亘り継続しており、日本の異議申し立て運動の中では画期的なことだ。異なる意見があることを表明し続ける事こそが大切だと私は思っている。

70歳になって強く思うのは、私たちの世代が後の世代に負の遺産を残すことだけは避けたい、という事だ。年金、国債、原発のゴミ、そして今度は戦争。したい放題やってきて、つけは結局次世代が背負う、これではあまりに身勝手ではないか。こんなことにだけは加担したくない。ごまめの歯ぎしりかもしれないが、今年もまた70歳の節目にこんな文章を書いて、自分の考えをはっきりさせたいと考えた。

昨年送った文書に対してたくさんのお返事を頂きました。賛同するという意見がある一方で、「このような個人の価値観が伴う問題については、主張する本人（長谷川）の中で結論が出ており、異論や反論を提起しても平行線をたどるだけ、生産的な議論にならない」という厳しい指摘もあった。異なった価値観を戦わせて新たな価値観を創り出す（止揚する）ためには、妥協という逃げではだめなのだという事は理解しているつもりだが、ではどうしたら、お互いの考えを主張し議論した結果を、新たな価値観の創造に結びつけられるのだろうか。そんなことを考えながら、また性懲りもなく他人に自分の価値観を押し付けるような文章を書いてしまったようだ。

この文章についても、（反論しても無駄だと思わず）異論反論を寄せていただければ幸いです。ご迷惑を承知でまた送らせていただきました。（完）